

1. 昔々のことです。ある日、おばあさんが川に洗濯に行きました。
2. すると驚いたことに、大きな桃がどんぶらこ〜どんぶらこ〜と流れてくるではありませんか！  
ところがもっと驚いたことには・・・
3. 中から子供が出てきたのです！ おじいさんもおばあさんも、おったまげたことおったまげたこと！！  
この子は桃から生まれたので、“桃太郎”と名付けられました。
4. 桃から生まれた桃太郎はお供に犬と猿と雉きじを連れ、悪い鬼が住む鬼が島に行つて、鬼退治をしたんだとさ。

いや〜、めでたしめでたし…と、これだけじゃ教会でお話しを聞いている意味がないよねえ。  
それでねみんな、ちょっと考えてみてね。このお話しと教会と、どんな関係があるのでしょうか？

5. 聖書に、これと似たお話しがあつたんじゃない？ 何の話しか分かるかな？
6. 川に生えている草のかげに、かわいらしい男の子の赤ちゃんが籠かごに入れられてねむっています。

「まあ、こんなところに赤ちゃんがいるわ。私が育てることにしましょう！」

水浴びに来ていた王女さまが赤ちゃんを偶然に見つけて、自分の子にして育てました。そして、水から引き出したという意味で、「モーセ」と名付けました。

7. モーセさんが大きくなった時、エジプトの悪い王様からイスラエルの人々を救うために、それはそれは大活躍をしたのです！  
お供には、犬や猿や雉きじじゃないんだけど、アロンやフルやヨシュアなどの力強い味方がおりました。  
こうして川から登場したモーセさんは、神様の尊いお役目を果たしたのでした。

8. 「王女は彼をモーセと名づけました。水の中から引き出した子供だからです。」 出エジプト2:10

9. 古い古いそのまた古い時代から、実は聖書は日本に伝わっていたんだって。そしてモーセさんのお話しは、いつしか桃太郎のお話しになって、語り継がれていったそうですよ。

モーセさんは、不思議な方法で神様に守られ、神様のお役に立つ人となりました。  
私たちの毎日も、神様は色々な方法でお守りくださるのですよ。神様は私たちと共にいてくださるお方です。

おしまい。